



常設展示のご案内

名橋「日本橋」保存会および日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会は「熙代勝覧」を日本橋の歴史・文化を後世に伝える貴重な作品と捉え、ベルリン国立アジア美術館から許可を得て、江戸東京博物館の全体監修のもと約17メートルにわたる複製絵巻を制作・設置いたしました。絵巻の絵画部分は原画を約1.4倍に拡大し、和紙に印刷し、また絵画を囲うパネルには江戸時代の町人文化に関する解説を記載しています。今から200年ほど前の江戸一番の賑わいをじっくりご堪能いただければ幸いです。



●設置場所
東京メトロ銀座線・半蔵門線「三越前」駅
地下コンコース壁面
(日本橋三越本店本館 地下中央口付近)

名橋「日本橋」保存会／日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会

協力：ベルリン国立アジア美術館、東京都、中央区、国土交通省東京国道事務所、東京メトロ、三越、三井不動産、小津和紙

協賛：室町大通会、東京中央大通会、室町二丁目町会、榮太樓總本舗、割烹 嶋村、紫山堂、昭和西川、千疋屋総本店、たいめいけん、日本橋とよだ、にんべん、村田眼鏡舗、山本海苔店、吉野館本店、東京シティ信用金庫、清水建設

監修：東京都江戸東京博物館

日本橋は2011年、架橋100周年を迎えます。

日本橋地域の写真や古地図などを大募集しています！

日本橋架橋100周年に向けて、日本橋の昔の写真、日本橋地域の昔の風景写真、過去の地図、絵図などを募集しています。ご提供いただける場合は、下記の事務局までご連絡ください。

【連絡先】名橋「日本橋」保存会 事務局

【住所】東京都中央区日本橋室町1-4-1 (株)三越内

【電話】03-3274-6263

200年前の日本橋の活気を描いた

『熙代勝覧』絵巻



時は、11代徳川家斉^{いえなり}の世の文化2年(1805)、
所は、大江戸八百八町のなかでも
とりわけ名高い日本橋
通りを行き交うのは1671人の老若男女に
犬20匹、馬13頭、牛4頭、猿1匹、鷹2羽

日本橋は2011年、架橋100周年を迎えます。



日本橋北橋詰の様子

日本橋から江戸橋までの本船町界限は
魚河岸(魚市場)で、活気に溢れていました。



四方からの往く人来る人でごった返しています。板の上に生魚を並べて
売る卸商人や仕入れを終えて市中へと向かう振売りの威勢のよい掛け
声が聞こえてきそうです。日本橋の魚河岸は、「日に千両落ちる」ともいわ
れる大商いがおこなわれ、大都市江戸の台所を支えていました。八百屋・
酒問屋・乾物屋などの店も軒を連ねています。



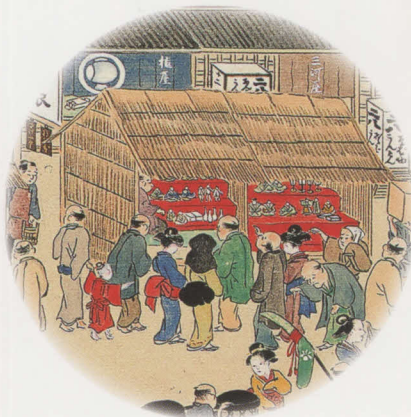
『^{きだいしょうらん}熙代勝覧』絵巻とは

今から約200年前、文化2年(1805)の江戸の、日本橋から今川橋までの大通り(現在の中央通り)を東側から俯瞰描写した作品です。原画は、ベルリン国立アジア美術館に所蔵されています。温かみを感じさせる情景と細かい筆致の優れた作品ですが、残念ながら絵師は不明。作品には88軒の間屋や店、1671人の身分も職もさまざまな人々や、犬20匹、馬13頭、牛4頭、猿1匹、鷹2羽などが生き生きと描かれ、興味深いシーンが次々と展開されています。絵巻のタイトル「熙代勝覧」は「熙ける御代の勝れたる大江戸の景観」という意でしょうか。さながら私たちを現代から江戸時代へとタイムスリップさせてくれます。



じつけんだな ひないち 十軒店の雛市

春になると外売りの雛人形の飯店が並び、市が立つ。江戸の春の風物詩のひとつ。縁起物の値段は交渉次第。



たちうり 菓子の立売

大きな日傘に商標を付けた立売の菓子屋。売るのは団子か饅頭か。紙袋を膨らませる顔の表情がユーモラス。左には往來の菓子の立売を見る子守と幼児。お姉ちゃんにおねだりで、お八つを買ってもらうのか。



駿河町通り界限の賑わい

中心に見えるのは天下の豪商「三井越後屋」。戸店でも随一の呉服商・三井家の越後屋。立看板に「現銀無掛直」とあり、掛売りが通例の世に現金法を打ち出し、また、店先売りで大当たり。国元本店から派遣された男所帯の江戸店の典型。



屋台の茶屋

現代でいうならオープンカフェ。市松模様の屋根は簡便な可動式店舗のサイン。美人の接客に鼻の下を長くする客。

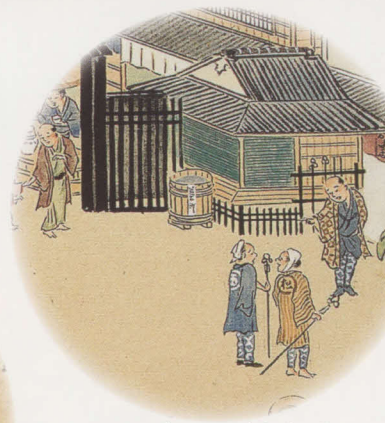


市中に多い犬

「江戸に多きもの 伊勢屋稲荷に犬の糞」と言われたように、江戸の町を歩けば、出くわすのは「伊勢屋」という屋号の店にお稲荷さんの祠、そして犬の糞だった。絵巻には20匹の犬が描かれている。

寺子屋入門の親子

寺子屋(稽古所)へ入門するための机を担いだ父親に手を引かれる子。遊び盛りでいやじゃと腰が引けている。



自身番屋と町木戸

自身番屋：町内の防犯・防火のため自身番が詰める小屋。家主などが交代で詰めた。外に捕物具、消火具が備わる。
町木戸：江戸の町と町との間に設けられた防犯用の木戸。通常、夜間は木戸番により閉じられた。